

光西寺だより 第40号

海一味

発行所

大阪市平野区加美北1-25-1

光西寺

Tel 06-6754-6423

<http://www.oct.zaq.ne.jp/kousaiji>

「インド仏跡を巡り」

光西寺副住職

田中 咀釈

先日山陰教区の布教団の皆様と一緒にインドまで行ってまいりました。約三十二名の参加でした。ブツダガヤやサルナートなど色々仏跡を巡らせて頂きました。

特に一番印象に残っているのは、霊鷲山の頂上にて皆様と一緒に読経させていただけいたことです。霊鷲山とはお釈迦様がお弟子に向かって無量寿経や観無量寿経をお説きされた山です。その頂上で布袍輪袈裟に着替えて皆様と重誓偈を読経させていただけたこの経験は一生忘れることはないと思います。鳥肌が立つような感動に包まれ、お釈迦様との距離がさらに近くなりました。本当にいらっしやった方なのだと何とも言えない今までに味わったこともない宗教的な感情があふれ出てくる感じでした。山には石洞窟があり、きつとここで雨季には行脚托鉢には行かずにお釈迦様やお弟子達は洞窟の中で

修行されていらっしやったのだろうと想像いたしました。

二千五百年前にこの霊鷲山でお釈迦様が舍利弗や目蓮尊者やその他多くのお弟子様方に向かつて説かれた教えが、いまこの私にまで届いているこの不可思議なご法縁。インドから中国に伝わるまでに約千年。中国から日本に伝わってからでも約千五百年が経ちますが、各時代の先人達のご苦勞のお陰でいまお念仏を慶ばせて頂けていることに頭が下がります。

イスラム教徒が一生に一度は必ずメッカなど聖地巡礼の旅に出るそうですが、きつと宗教的な感動と再発見があるからなのでしょう。やはり仏教でも仏跡や聖地を巡る事の大切さを改めて感じました。この感動を大切にしてこれからの布教活動に活かしていきたいと思えます。



※正信念仏偈の意味を知ろう

正信：如来の言葉を信じる
(絶対に救う)

念仏偈：嬉しい時も悲しい時も
も唱える讃歌

*正信偈は親鸞聖人の著作であり、浄土真宗の立教のいわれを著わした「教行信証」の「行の巻」の最後に書かれているものです。

○萬善自力貶勤修

そして多くの善根(万善：まんぜん)を積む自力の修行をしりぞけられて

○園満徳號勸專稱

むしろ願いの徳まどかな仏の名をただひたすらに称えよとすすめます

○三不三信誨懇勸

「三不信と三信」の教えを、ねんご

ろに示し

○像末法滅同悲引

正法・像法・末法・法滅のどの時代でも平等に救う法を明らかにされ

○一生造悪値弘誓

一生涯、悪をつくりつづけても本願(弘誓：ぐぜい)を信じれば

○至安養界証妙果

阿弥陀如来のお浄土(安養界)に往生して、仏の覺りを開くといわれた

○善導独明仏正意

善導大師は、ただひとり誤りを正し、仏の正意を明らかにされた



(続きは次号にて)

ようこそそのお参り
有難うございました



今年もお盆に献灯の灯で故人様を
偲び読経させて頂きました。
大勢の皆様にお参りして頂き、誠に
有難うございました。
来年も是非お参り下さいますようお願い
いたします。

義援金

献灯の懇志の一部三万円を豪雨被害にあわれた北九州（大分・福岡）の方々へ本願寺のたすけあい募金を通じて送金させて頂きました。



ご寄贈品

豊中市仏光山如来寺様より全長二十メートルの五色幕をご寄贈頂きました。報恩講法要に飾らせて頂きます。



本堂障子張り替えました

仏教婦人会の皆様にご手伝いいただき本堂の障子を張り替えていただきました。また如来寺様より寄贈いただきました五色幕を修繕頂きました。皆様のご奉仕まことに有難うございました。



今月の掲示板

苦しみも悲しみも

自分の荷は

自分で背負って

歩きぬかせてもらう

わたしの人生だから

「東井義雄の名言より」



報恩講法要のお知らせ

十月二十一日(土) 一時半〜

十月二十二日(日) 一時半〜

講師 岡山県笠岡市

本願寺派布教使・蓮乗寺住職

田井 智彦 師

このたび右記の通り例年の報恩講を勤修いたします。宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲びすべての恩徳に感謝し生かされている幸を歓喜させて頂きましょう。



年頭法要並びに前坊守 田中泰江三回忌のご案内

新しい年のはじめに

御本尊に御挨拶をー！！

◎日時

平成三十年一月七日(日)

午後一時三〇分より

右記の通り年頭法要を予定しております。併せて前坊守田中泰江の三回忌法要をお勤めさせて頂きます。お参りお待ちしております。



法話と茶話会の開催日

平成二十九年 副住職法話

十二月 八日(金) 午後二時〜



若坊守のひとりごと

仏教のお寺の原点は竹林を寄付されたところから始まったらしい。直射日光のきついインドで大切なものは日陰と水。竹がしなつて影が出来るのでその下でお釈迦様は瞑想されていたそう。実際ににお釈迦様が瞑想されていた竹林に座ってみた。涼しくて気持ちよかった。竹の次はマンゴー園が寄付された。一本に百個位の実がなるので托鉢に出られない雨季などそれを食べて飢えをしないそう。竹林からマンゴー園。そこから少しずつ現在の寺院の形へと発展していったそう。どんな事でも最初の一步は小さな事からの積み重ねなんだなあと実際に竹の影に入ると本当に実感できた。

インド竹林精舎にて

